

第68回全九州高等学校登山競技大会について

1 はじめに

大会では、福岡県との県境である脊振山地を、東から西へ縦走するルートを経由して設定しました。県内には1,000mを超える山は三つしかなく、今大会の最高峰である脊振山も1,000mをわずかに超える程度です。当然ながら低い山城での大会となるため、暑い中での登山行動が予想されます。しかし、今大会のコースの多くがブナ林などの樹林帯の中を通過していますので、低山域の割には快適に歩けるかと思えます。縦走路も約2/3は九州自然歩道が使われており、比較的歩きやすいコースです。

脊振山コースは、坂本峠から、蛤岳を目指しますが、蛤岳の手前には、江戸時代、治水の神様と呼ばれた成富兵庫茂安が作った蛤水道があります。この水音には、ほとんどの選手が心癒されるでしょう。この後、蛤岳を通過し、山系最高峰の脊振山を登頂します。この山系では、唯一標高が1,000m近い場所ですので、涼しく過ごせることと思えます。唐人舞、椎原峠に至るまで、登る箇所もいくらかありますが、比較的下りがメインのコースです。

井原山コースは、アップダウンが続く登山道ではありますが、メインである井原山山頂からの景色は良いものです。北に玄界灘、南に天山や雲仙、東と西に長い脊振山系の稜線を眺めることができます。この稜線を見ながら、進んできた登山道を思い返すとともに、一息ついていただきたいと思えます。また、このコースは人工林や自然林といった木々に囲まれており、日光からの体力の消費は比較的少ないと思えます。大会の時期には花を見ることはできませんが、コバノミツバツツジ、ツクシシヤクナゲなどが群生し、開花期の5月の連休時には、登山客がよく訪れる山域です。

今回のコースの他にも、県内には八幡岳、経ヶ岳、天山や黒髪山といった山々があります。これらの山域は、県総体や新人戦などで使用することも多く、よく歩きましたが、今大会のコースは距離が長くきつい反面、季節ごとに違った雰囲気を持っている山系です。とはいえ、7月という暑い季節の中での大会ですので、熱中症には十分に注意してください。

2 脊振山・井原山山系の自然

(1) 地勢、地形、気象、及び植生

佐賀県は、福岡県の西、長崎県の東に当たり、九州北西部に位置しています。本大会のコースである脊振山から三瀬方面の山々は、福岡県との県境にあり、北は玄界灘、南は佐賀平野（筑紫平野）や有明海が広がっています。佐賀県の大きさは、東西約73km、南北約74km、面積約2,441km²で、国土のわずか0.65%の小さな県です。最も高い山は、長崎県との県境に位置する多良岳山系の経ヶ岳（1,075.7m）、次が脊振山系の脊振山（1,054.6m）、そして3番目が天山（1,046.0m）です。

この地域のコースのほとんどが花崗岩からなります。花崗岩は一般的には見た目は白っぽい岩石で、黒い斑点があります。白い部分はカリ長石や斜長石といった長石で、黒い斑点は雲母です。長石の方が多いので、

全体的には白っぽく見えます。黒雲母は薄くはがれやすい鉱物として習ったのではないのでしょうか。花崗岩の中に見られる黒雲母は2mm以下と小さいので、薄くはがれやすいかどうかはなかなか分かりません。ただ、登山の途中で、小さな小川があったら川底を見てください。金色に光る鉱物を発見できるかもしれません。キラキラとしてきれいなので、砂金かと思間違えてしまいます。残念ながら、砂金ではなく、黒雲母が風化したものです。また、花崗岩が風化すると、宅地や学校の運動場に使われている「まさ土」と言われる白っぽい砂になります。花崗岩と思える白い崖を触ってみてください。

この山系で本大会が開催されるわけですが、この山系の最高峰の脊振山(1,054.6m)には、福岡管区気象台の脊振レーダーがあります。ここでは、台風や豪雨(雪)時に降水域の範囲、強さ、降水域の移動などを観測しています。現在の観測システムでは10分間隔で観測することができます。脊振山は、山頂の峰の形が西北西から東南東へ細長くなっています。山をこえる風はそれに垂直方向になりますので、南南西や北北東の風が吹くことが多いようです。脊振山系の西端は玄界灘に突き出たようになっているので、地形の状態から南西の風が吹くことが多いようです。

この地域の降水量は、佐賀県平均を上回っています。これは、ほぼ恒常的に吹く西風が山の西(南西)側斜面にあたって雲を発生させることが原因です。そのため、西側に高い山があるところの東側は、降水量は減る傾向にあるようです。また、標高が300~600mほどあるところが多いため、年平均気温が16°Cの平地より2~4°Cほど低いようです。しかし、夏季になると標高600mの山間部ですら30°Cを超える日があります。以前は、扇風機や冷房機器が不要だといわれていましたが、最近では、必需品になっているということです。

(2) 主な動植物

①植物・・・ブナ、クマシデ、オオキツネノカミソリ、コバノミツバツツジ、オオカメノキ
ツクシシヤクナゲ、ミヤコザサ

②動物・・・キリシマミドリシジミ、ヤマキマダラヒカゲ、クロヒカゲ、エゾゼミ、アナグマ
キツネ、タヌキ、ニホンイタチ、ヤマカガシ、ブチサンショウウオ

3 大会山域の主な名称

| | | |
|----------------|--------------------|--------------|
| 御手水の滝 おちょうずのたき | 七曲峠 ななまがりとうげ | 坂本峠 さかもととうげ |
| 霊仙寺 りょうせんじ | 千石山 せんごくやま | 永山峠 ながやまとうげ |
| 蛤水道 はまぐりすいどう | 蛤岳 はまぐりだけ | 犬井谷 いぬいだに |
| 小川内 おがわち | 古賀ノ尾 こがのお | 脊振山 せふりさん |
| 矢筈峠 やはずとうげ | 太鼓岩 たいこいわ | 唐人舞 とうじんまい |
| 椎原峠 しいばるとうげ | 一谷 いちこく | 鬼ヶ鼻岩 おにがはないわ |
| 獵師岩山 りょうしいわやま | 小爪峠 こづめとうげ | 井手野 いでの |
| 西山 にしやま | 番所跡 ばんしょあと | 金山 かなやま |
| 脚気地藏 かけじぞう | 山中 やまなか | 三瀬峠 みつせとうげ |
| 洞明 どうみょう | 北山ダム ほくざんダム | 北山湖 きたやまこ |
| 三瀬 みつせ | 古場 こば | 上合瀬 かみおおせ |
| 下合瀬 しもおおせ | 土師 はじ | 釜蓋川 かまぶたがわ |
| 神水川 しおひがわ | 水無鍾乳洞 みずなししょうにゅうどう | |

4 大会コース案内

※鍵括弧・太文字・下線は主要地点

< 7月 5日(土) > 脊振山コース

このコースは、まずバスで「北山少年自然の家」を出発する。途中、道の駅でトイレ休憩を取り、国道385号線の「坂本峠」で下車して隊行動で登山行動をスタートする。「坂本峠」は、佐賀県と福岡県を繋ぐ道であり、道幅も狭く車の通りも多いため、注意が必要である。また、トイレがないため、「北山少年自然の家」を出発する際に済ませておこう。



坂本峠

この先の縦走路には、巨石が点在した場所や、谷を渡る小さな木橋や、枝打ちが済んだヒノキの植林が続く。642.2mの三角点から尾根上を登って行く。上り終わった付近で西に向きが変わる。水音が聞こえてきたら、「永山峠」は近い。永山林道を横切って進むと、左側に勢いよく流れる水路がある。佐賀藩の成富兵庫茂安が作った人工水路、蛤水道である。蛤岳からの水は、もともと福岡藩側、那珂川上流の大野川に流れていた。一方、佐賀藩の側の田手川下流域では夏場の水不足が深刻化していた。佐賀藩家老成富兵庫茂安は佐賀藩に導水するために、大野川上流にため池を築堤、田手川上流の坂本川まで、蛤岳周囲に約1260mの水路を完成させた。現在は改修によりコンクリート製となっている。

蛤水道を渡り、「蛤岳」へ登って行く。山頂まで急登ではあるが、距離は短い。山頂には、花崗岩が雄岩と雌岩とに分かれた珍しい国岩「蛤岩」があるが、この岩が蛤に似ていることから「蛤岳」と呼ばれている。また山頂からは佐賀平野と有明海が一望でき、晴れた日には遠く雲仙の山々が見渡せる。862.8mの三角点を越えると下りになる。ほどなく犬井谷分岐に着く。九州自然歩道を北に進んでいく。水の流れる沢沿いを歩き、福岡県側「小川内分岐」、佐賀県側の古賀ノ尾への分岐を過ぎると、急な上りとなる。「分屯基地分岐」を左に進み、暗い樹林帯から、明るい開けた場所に出る。



脊振山山頂

尾根と谷を交互に繰り返すアップダウンの縦走路を20分ほど行くと木道になり、气象台のレーダーが見えてくる。以前より木道の補修は進んでいるが、まだ損傷している箇所もいくつかあるため気をつけて歩行しなければならない。道路に近くなり、たにし仏の像を右に石段を上がっていくと、脊振山駐車場に着く。この駐車場には、脊振山頂に向かう一般の方の車両の出入りも多いため注意してほしい。また、トイレや自販機なども設置されており、トイレは休憩時に利用可能である。ここから少し下った場所に「脊振山キャンプ場」がある。「脊振山キャンプ場」からチーム行動で、「脊振山」山頂へ向かってもらう。途中、自衛隊駐屯地のフェンス越しに役行者像が祀



役行者像 (えんのぎょうじゃぞう)

られている。脊振山は日本六所弁財天の一つとして広くあがめられている。石段は佐賀藩3代藩主鍋島綱茂が元禄10年に奉納したものである。山頂からは、北に博多湾、東に脊振ダム、南東に五ヶ山ダムが見ることができる。今大会で一番標高が高い地点でもあり、広く景色を見渡すことができる。

往路を戻り、駐車場下の「脊振山キャンプ場」から隊行動で矢筈峠まで向かう。脊振山駐車場から北西に伸びる舗装路を進むと三叉路と出会うが、南のほうへ下っていく。しばらくすると、福岡管区气象台レーダーへの専用道路のフェンスが見えて

くる。ここから15分ほど行くと、急なヘアピンカーブの下りとなり、「矢筈峠」に着く。南に下れば約60分で田中のバス停に着く。峠から舗装道路をしばらく上ると、縦走路に戻る。

ここからは、平坦な尾根伝いの山道となる。コバノミツバツツジ・イヌツゲなどが多く、眺めもいい。10分ほどでザレ場の展望の良い所を通る。ここより「唐人舞」までは下りが多くなる。唐人舞は東の矢筈峠と西の椎原峠のほぼ中間にある地点である。その昔、唐の人がこの地を訪れた際、眺望の素晴らしさに驚くとともに、眺望の先にある遠いふるさとに思いを馳せ石の上で舞ったという言い伝えから山名となっている。

今大会では唐人舞のピークには立ち寄らないが、ピークへと向かう分岐を便宜上「唐人舞」とする。分岐を過ぎ、しばらくすると草原状の見晴らしの良い地点から今後の縦走路が見渡せる。自然林の中を30分進むと日が差して明るい椎原峠に飛び出る。そこで福岡県側からの登路と出会う。5～6分直進すると椎原峠西分岐に出る。ここには、道標や看板などが設置されている。三叉路になっており、北へ進めば鬼ヶ鼻岩に到着するが、今大会では舗装路が続く南西の方角へ進んでいく。木々に囲まれ、少し薄暗い道を進んでいくと四叉路に出会う。ここが「椎原峠登山口」である。そのまま舗装路を直進すると、「吉野山キャンプ場」に到着する。広い駐車場が目印である。トイレは利用可能だが、キャンプ場を利用している一般の方も多いため、マナーには気をつけてほしい。到着後、バスで幕営地の「北山少年自然の家」へ向かう。

< 7月 6日(日) > 井原山コース

幕営地の「北山少年自然の家」を出発し、バスで「山中キャンプ場」へ向かう。到着後、駐車場のトイレは利用可能であるが、キャンプ場内のトイレや水道は使えないので注意が必要である。この日はチーム行動で大会コースを進んでいく。「山中キャンプ場」左手に山中地蔵(脚気地蔵)、右手に沢を見て舗装林道をたどるとやがて舗装は途切れ、登山道に変わる。そこからしばらくすると車道へ出る(「洞明橋」)。これを横切ると、本格的な登山が始まる。右に道明の滝を見ながら北東へ進む。数度渡渉して進むと、照葉樹に包まれた道に変わる。その先、左手上部に巨

大な岩を見て、連なる小滝の前を渡渉すると、間もなくヒノキ林が始まる。間伐されて比較的明るい道をたどり、再び照葉樹林の森へ入る。少しすると分岐である「金山四差路」に到着する。周囲は浅い谷間で、脊



矢筈峠



山中キャンプ場

振山系縦走時の水場がある。ただし衛生上、生水をそのまま飲むのは危険である。このあと、谷を緩く詰めて鞍部に至り、鈍いピークを一つ越して下った所が樹林に包まれ、道標が立っているところがアゴ坂峠である。ここから、急な上りに変わり前方に岩場が見えてくる。転倒や滑落に注意してほしい。緩いのぼりを進んでいくと四等三角点のある城ノ山(845.9m)に到着する。痩せ尾根を緩く下ると再び平坦になり、50mほど下ると鞍部が再度出現する。ここから20mほど上ると山頂である「三瀬山」である。木に吊るされた山頂標識が出迎えてくれる。ただし展望はない。じわじわと高度を下げていき、落葉樹林が交じる樹林帯を進んでいくと脊振山系の植生の一つ、ミヤコザサが両脇に現れるが長くは続かない。



小ピークである城ノ山

じわじわと下りを進むと、自動車の音が聞こえ始め、右手に地蔵様を見て、「三瀬峠」に到着する。標高は、約580m程で、福岡県と佐賀県を結ぶ国道263号である。この国道を横断し、正面の登山口に入っていく。ここからはアップダウンの道が続き、ミヤコザサに囲まれた下りが見えてくると、「水無鍾乳洞分岐」である。右は水無谷へ、左は新村集落へ続く。ここは直進し、縦走路をたどる。ミヤコザサの踏み分け道を登る。高度を上げるにつれて急になり、境界見出標のある小ピークに達するまで地図に記載されていないピークが多く、体力も消費される。小ピークから先はなだらかで、分岐を過ぎると間もなく井原山山頂である。

「井原山」(982.2m)は福岡県糸島市と佐賀県佐賀市の境に位置する山。典型的な断層山地のため、福岡県側は急崖となっており、洗谷や水無谷など、多数の渓谷や滝をもっている。ササ原が広がる山頂一带は、5月上旬にコバノミツバツツジに彩られる。7月上旬にはオオキツネノカミソリなどが出迎えてくれる。展望もすばらしく、金山や背振山地最高峰の脊振山(1,054.6m)をはじめとする山々が一望できる。最近、山頂の岩の隙間等にマムシがいることが度々報告されているので、休憩する際には十分注意してほしい。その山頂に向けて、福岡県側、佐賀県側から多くのコースが延びる。



井原山山頂

ここから南へたどって下っていくと自然林に囲まれた尾根道で、迷うところがない一本道である。左手に高々とそびえ立つ鉄塔の下を進み、未舗装林道に突き当たる。左に曲がってすぐに未舗装林道と別れ、西へ延びる谷沿いを下る。小沢を渡り、薄暗い植林帯の中に硬く踏まれた道が続く。コンクリートの舗装路が見えてくると「古場岳」は間近である。「古場岳」周辺はかつて別荘地として開発された所で、今なお建物を散見し、民家もある。また雷山横断林道にあり、完全舗装で時期によっては車の通りも多いため、注意が必要である。ここから、沢沿いの舗装路を南に下りながら「北山東部小学校」へ向かう。「北山東部小学校」の近くには国天然記念物の下合瀬の大カツラがある。昭和37年5月に国の天然記念物に指定された名木。樹齢1,000年と推定され根回りは20mあり、基幹部からは回り1m以上の「ひこばえ」が25本も群生し、全国第2位の巨木ともいわれている。県内では他に桂の自生は見られないところから「珍木」に属している。「北山東部小学校」ではトイレや水場の利用ができる。解団式後、バスで宿舎のホテル龍登園へ向かう。

5 大会日程

| | 第1日 (7/4(金)) | 第2日 (7/5(土)) | 第3日 (7/6(日)) | 第4日 (7/7(月)) |
|-------|---------------|---|---|--------------|
| 04:00 | | 起床 | 起床 | |
| 05:00 | | | | |
| 06:00 | | 引継式 (設営隊→行動隊) 北山少年自然の家発 【計画輸送・バス移動】 | 引継式 (設営隊→行動隊) 北山少年自然の家発 【計画輸送・バス移動】 | 起床 |
| 07:00 | | 坂本峠 | 山中キャンプ場 | |
| 08:00 | | 永山峠 蛤岳 | 洞明橋 金山四差路 | 朝食 (予定) |
| 09:00 | | 小川内分岐 分屯基地分岐 | 三瀬山 三瀬峠 | |
| 10:00 | | | | 受付 閉会式 |
| 11:00 | 専門委員長会議 | 脊振山キャンプ場 脊振山 脊振山キャンプ場 (昼食) | 水無鍾乳洞分岐 | 解散 |
| 12:00 | 選手・監督受付 | 矢筈峠 唐人舞 | 井原山 (昼食) | |
| 13:00 | 監督・リーダー会議 | 椎原峠西分岐 椎原峠登山口 | 古場岳 | |
| 14:00 | 開会式 登山隊編成 | 吉野山キャンプ場 【計画輸送・バス移動】 | 北山東部小学校・解団式 【計画輸送・バス移動】 | |
| 15:00 | 競技開始 | 北山少年自然の家 引継式 (行動隊→設営隊) | ホテル龍登園 | |
| 16:00 | | 入浴 (宿泊棟) | | |
| 17:00 | 引継式 (行動隊→設営隊) | | | |
| 18:00 | | | | |
| 19:00 | (リーダー会議) | リーダー会議 | 夕食 (予定) | |
| 20:00 | | | | |
| 21:00 | 就寝 | 就寝 | | |
| 22:00 | | | 就寝 | |

6 荒天対策（概要）

7月4日（金）に起こった場合

| | 地震（震度5弱以上） | 台風・気象警報以上 | 大雨注意報 雷注意報 発表時 |
|---------|----------------|---------------|-------------------|
| 7月4日（金） | 大会中止 早期帰還準備 | 宿泊所待機 行動中止 | 通常行動 |
| 7月5日（土） | 帰宅完了 | 通常行動 | 通常行動 |
| 7月6日（日） | | 通常行動 | 通常行動 |
| 7月7日（月） | | 通常行動 | 通常行動 |

7月5日（土）に起こった場合

| | 地震（震度5弱以上） | 台風・気象警報以上 | 大雨注意報 雷注意報 発表時 |
|---------|----------------|---------------|-------------------|
| 7月5日（土） | 大会中止 早期帰還準備 | 宿泊所待機 行動中止 | 通常行動 |
| 7月6日（日） | 帰宅完了 | 通常行動 | 通常行動 |
| 7月7日（月） | | 通常行動 | 通常行動 |

7月6日（日）に起こった場合

| | 地震（震度5弱以上） | 台風・気象警報以上 | 大雨注意報 雷注意報 発表時 |
|---------|----------------|---------------|-------------------|
| 7月6日（日） | 大会中止 早期帰還準備 | 宿泊所待機 行動中止 | 通常行動 |
| 7月7日（月） | 帰宅完了 | 通常行動 | 通常行動 |

7月7日（月）に起こった場合

| | 地震（震度5弱以上） | 台風・気象警報以上 | 大雨注意報 雷注意報 発表時 |
|---------|----------------|---------------|-------------------|
| 7月7日（月） | 大会中止 早期帰還準備 | 宿泊所待機 行動中止 | 通常行動 |

※なお、異常な高温時（WBGT 31 以上）や雷の発生が予想される場合など、行動に支障がある場合は、気象情報等をもとに総務委員会で対策を検討し、登山隊長が指示する。

7 連絡先

・佐賀県高体連事務局

〒840-0016 佐賀県佐賀市南佐賀3丁目11-15
佐賀県立佐賀東高等学校内
TEL：0952-24-0303 FAX：0952-24-0224

・佐賀県高体連登山専門部

〒840-0841 佐賀県佐賀市緑小路1-1
佐賀県立佐賀工業高等学校内
TEL：0952-24-4356 FAX：0952-25-7043

[大会本部]

・7月4日(金)～7月6日(日)

佐賀県北山少年自然の家(幕営地)
佐賀県佐賀市富士町大字関谷514-1 TEL：0952-57-2321

・7月6日(日)～7月7日(月)

ホテル龍登園(宿舎)
佐賀県佐賀市大和町大字梅野120 TEL：0952-62-3111

8 留意事項

- (1) 大会本部及び幕営地・宿舎は上記のとおり、佐賀県北山少年自然の家、及びホテル龍登園とする。
- (2) 実施要項の「15.連絡事項について」の(7)に記載のとおり、暑さ・風雨・防虫等の対策を考えておくこと。特に、行動時の水分や塩分の補給等については、十分対策を考えておくこと。
- (3) 実施要項の「15.連絡事項について」の(8)にも記載しているが、幕営地以外の場所では水場の利用ができない可能性が高いため、登山口へ移動する前に、あらかじめ水を確保しておくこと。
- (4) もし、事前の下見を行う場合には自然保護や他の登山者へ配慮ある行動を心掛けること。また、登山道の木道・階段等には近年荒廃が進んでいる箇所もあるので、十分注意して通行するとともに、荒天や熱中症などへの安全対策を図ること。
※幕営地である北山少年自然の家や解団式の会場である北山東部小学校の敷地内に入って下見をする場合は、無断で立ち入ることがないように、必ず事前に連絡をして管理者の許可を得ること。
- (5) 九州高体連のウェブページに掲載する大会地図はA3判なので、印刷する際には注意すること。
- (6) 国土地理院により、令和7年4月1日に全国の山の標高が改定されたが、本大会では九州高体連ウェブページに掲載する大会地図の標高を基準として実施する。
- (7) その他、詳細は予報2号において連絡するので確認すること。